



## 月主題：やってみる

### 「絵本を選ぶ楽しさ」

新型コロナウイルスに伴う休園が続き、6月に入っても午前保育を2週間続けなければならず、なかなか通常の保育には戻れない状態です。保護者の皆様、そして子どもたち、長い休園で不安や疲れが出てはいませんか。ご家族や、お友達とお話はできていますでしょうか。幼稚園では、いつでもご相談を受け付けていますので、お気軽にお電話や、お声をかけてください。

さて、担任の先生たちは、たくさんの計画を立て、入念な準備をして、保育ができることを楽しみにしながらこの時期を過ごしていました。間近にならなければ、次の週の予定も立てられず、変更になるたびに「では、どうしよう。どうしたら子どもたちを楽しませることができるか。」と知恵を絞り、アイデアを出しながら過ごしていました。

その中で、園長と主任と、絵本の整理をしてくれているアルバイトの男子大学生3人で、先日絵本屋「南風」へ行って絵本を仕入れてきました。ちょっと遠いので、この空いた時間を使って、やっと行くことができました。店主の出町南さんは、昨年幼稚園でも絵本の講演を行ってくださった方です。里塚のご自宅に、こだわりぬいた良い絵本をたくさん置いています。出町さんと私は、札幌市教育委員会の一室で行われる、図書選定会のメンバーです。選定委員新米の私に、絵本の選定のポイントと、絵本の大切さを教えてくださった方です。

「南風」の絵本は、さすがでした。どの本も、絵も内容も一味違います。「これも子どもたちに読んであげたい。」「これも」「これも」。30冊くらい絵本を購入して帰ってきました。

子どもたちが初めて手にする本は、「絵本」です。初めて手にするものは、少しでも豊かな優れたものを与えたい。聖ミカエル幼稚園はそのような気持ちで絵本をそろえています。日本の絵本にもいいものがたくさんありますが、海外の絵本には、優れた絵

のセンス、哲学的な内容が多いと感じます。そこで、最近は海外の絵本にも着目して絵本を入れています。

やっと再開した幼稚園で、絵本を読み聞かせる豊かな時間をみんなで共有し、楽しんでほしいものです。

お父さん、お母さん、幼稚園が再開した後も、どうぞ絵本の部屋にいらしてください。貸し出しは絵本の部屋が空いていればいつでもOKです。絵本の部屋でゆっくりじっくり絵本を選んで、お家で、ご家族みんなでお楽しみください。

園長 渡部 良子

## キリスト教保育

### 「当たり前のごことに感謝して」

新型コロナウイルスが日本にも広がってきました。最初の頃、これがどれくらい怖いのか、正直いって私もピンと来ませんでした。しかし、多くの方がこれはとんでもないウイルスだと気がついたきっかけは、志村けんさんと岡江久美子さんが亡くなったことではないでしょうか。岡江久美子さんが嫁いだ大和田家は聖公会の信者さんで、夫の猥さんの叔父にあたる方が聖公会の司祭でした。それだけに私もショックで、気丈に振る舞っている猥さんの姿が痛々しく見えました。

新聞紙上で「私が生きている今日は、誰かが生きられなかった今日だ」という言葉を見ました。毎日が当たり前のように過ぎていくこと自体が、実はとても有り難いことなのだと教えられます。子どもたちが幼稚園で唱えている「主の祈り」の中に、「日ごとの糧を今日もお与えください」という祈りがあります。この言葉は、今日、自分が生きている背景にはいろいろな人の支えと協力があること、何よりも神さまが守ってくださっていることへの気づきと、感謝の気持を与えてくれます。これからの幼稚園の生活が、この感謝の上に成り立っていくことを願っています。

チャプレン 司祭 下澤 昌